

■11月21日

JNTO、訪日外国人旅客、10月までの累計過去最多、1000万人達成が視野

(日経によると)

日本政府観光局は20日、日本を訪れる外国人旅行客が1～10月の累計で865万9600人となり、2カ月を残して年間の過去最多を更新したと発表した。円安や観光査証(ビザ)の発給要件の緩和を追い風に、台湾や東南アジアからの旅客が大幅に増えた。政府が掲げる年間1千万人の目標達成が視野に入ってきた。

これまでの最多は2010年の861万人。今年1～10月の累計は前年同期比23%増えた。

全体の2割を占める台湾が188万3400人と前年同期比53%増えた。台北と仙台、山形を結ぶチャーター便が就航し、関西国際空港を拠点とする格安航空会社(LCC)ピーチ・アビエーションの増便なども旅客数を押し上げた。

東南アジアもビザの発給要件の緩和を背景に好調だ。タイは前年同期比64%増の34万6500人、シンガポールは31%増の13万1100人、マレーシアは25%増の12万1900人と軒並み大幅に増えた。

中国からの旅客も戻ってきた。1～10月の累計は111万6100人と前年同期を15%下回ったが、10月だけでみると前年同月比74%増の12万1400人に回復した。

韓国からの客足は鈍い。10月で6%減の15万8300人となり、12年2月以来1年8カ月ぶりの減少となった。観光庁は東京電力福島第1原発事故の汚染水問題に対する懸念から訪日を控える動きがあるとみている。

(日経)11/20

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFS2003E_Q3A121C1EE8000/ (-)

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFS2003E_Q3A121C1EE8000/

(JNTO プレスリリース)11/20

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFS2003E_Q3A121C1EE8000/ (-)

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFS2003E_Q3A121C1EE8000/

* 出典:JNTO 10月単月・国別は以下の通り

2013年10月 訪日外客数 (JNTO推計値)

Visitor Arrivals for Oct. 2013 (Preliminary figures by JNTO)

国・地域	Country/Area	総数 Total			総数 Total		
		2012年 10月	2013年 10月	伸率(%)	2012年 1月～10月	2013年 1月～10月	伸率(%)
総数	Grand Total	705,848	928,500	31.5	7,019,878	8,659,600	23.4
韓国	South Korea	168,150	158,300	-5.9	1,659,268	2,102,400	26.7
中国	China	69,713	121,400	74.1	1,320,771	1,116,100	-15.5
台湾	Taiwan	135,164	213,500	58.0	1,231,439	1,883,400	52.9
香港	Hong Kong	33,828	62,400	84.5	400,809	611,000	52.4
タイ	Thailand	31,701	61,300	93.4	210,830	346,500	64.4
シンガポール	Singapore	10,264	16,100	56.9	99,959	131,100	31.2
マレーシア	Malaysia	11,335	17,800	57.0	97,792	121,900	24.7
インドネシア	Indonesia	8,704	10,600	21.8	80,429	108,800	35.3
フィリピン	Philippines	8,292	10,900	31.5	70,865	88,600	25.0
ベトナム	Vietnam	6,278	11,300	80.0	46,938	72,200	53.8
インド	India	6,725	6,400	-4.8	58,093	63,700	9.7
豪州	Australia	17,890	18,100	1.2	167,016	198,100	18.6
米国	U.S.A.	66,556	73,700	10.7	600,545	665,900	10.9
カナダ	Canada	12,517	14,000	11.8	112,126	125,300	11.7
英国	United Kingdom	20,080	20,800	3.6	146,695	162,000	10.4
フランス	France	14,467	17,100	18.2	109,378	133,000	21.6
ドイツ	Germany	12,891	13,700	6.3	90,622	102,200	12.8
ロシア	Russia	5,612	5,800	3.3	40,665	50,700	24.7
その他	Others	65,681	75,300	14.6	475,638	576,700	21.2

スターフライヤー、新執行役員も配置しWEB販売強化

スターフライヤーは20日、石山健二・営業本部システムWeb部長兼経営企画本部IT推進部副

部長が執行役員に昇格する人事を発表した。12月1日付で、担当業務は営業本部長兼営業本部システムWeb部長。

Aviationwireによると、スターフライヤーの航空券販売は自社サイトによる直販がもっとも多く、サイトの利便性向上やスマートフォン対応など、石山氏を中心にウェブ販売を強化する。同社によると、ウェブサイトの改善についてはすでに作業を開始しており、14年4月以降には改善箇所をサイトに反映するという。

(Aviationwire)11/20

<http://www.aviationwire.jp/archives/28830> (-> <http://www.aviationwire.jp/archives/28830>)

(スターフライヤー プレスリリース)11/20

<http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120131120062460.pdf> (-> <http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120131120062460.pdf>)

ANAHD伊東社長、JALとの業績差、自力で縮める努力

ANAホールディングスの伊東信一郎社長は20日の記者会見で、2014年3月期の連結業績予想を同社が下方修正する一方、日航が上方修正したことについて見解を語った。

日刊航空によると、伊東社長は、「我々が従前から指摘しているような構造の差は明らかにしていると思う」とした。その上で、「日本航空との差を自力で縮める努力をするのが我々の使命。格差是正等もそれがあって、支持されるのだと思う」と述べた。

また同会見の中で、篠部修ANA社長は早ければ年内にも羽田空港増枠に伴う国際線就航地などを発表したいとの意向を示した。

(日刊航空)11/21

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1121-02.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1121-02.pdf>)

(時事ドットコム)11/20

http://www.jiji.com/jc/c?g=eco_30&k=2013112000848 (-> http://www.jiji.com/jc/c?g=eco_30&k=2013112000848)

全日空、10月、旅客利用実績、国際線、前年同月比15.9%増、L/F71.5%

全日空は20日、2013年10月のANAグループ旅客輸送実績(速報値)を明らかにした。これによると、国際線旅客数は53万6,958人で同15.9%増加した。搭乗率は前年並みの71.5%。

国際線全体の11月予想は提供2%増に対して、旅客数は7%増、搭乗率75%を見込む。

欧米線はビジネス需要を中心に好調で、特に欧州線の利用率は84%と高水準。また、中国線は座席供給が3%増に対し、旅客数は41%増加し回復方向。

一方、日本人のプレジャー需要は、対前年比8割減だった底からは回復しているものの、2011年10月と比べると64%減(前年同月比57%増)となっている。

路線別では、9月から増便した成田—シカゴ線の利用率は72%と堅調に推移。また、737型機による週3便から767型機での週7便運航に増便したミャンマー線は座席数が4倍になったが、旅客数は前年比8~9倍に増加、計画以上に利用が多いという。

(日刊航空)11/21

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1121-02.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1121-02.pdf>)

ILO、日航の整理解雇、第2次勧告採択

(毎日新聞によると)

ILO(国際労働機関)理事会は、日本航空の乗員やキャビンアテンダント165人の整理解雇問題で日本政府に対する第2次勧告を採択した。ILO (-> <http://mainichi.jp/search/index.html?q=%EF%BC%A9%EF%BC%AC%EF%BC%AF&r=reflink>) に申し立てをした日本航空乗員組合などが20日、東京都内で記者会見して明らかにした。日航の整理解雇の問題は現在、東京高裁で係争中。勧告では、組合と会社がきちんと協議するよう求めている。

経営破綻した日航は2010年12月、整理解雇を実施。ILO (-> <http://mainichi.jp/search/index.html?q=%EF%BC%A9%EF%BC%AC%EF%BC%AF&r=reflink>)

理事会は12年6月に、整理解雇がILO条約に抵触するとして、整理解雇を巡る労組と会社の協議を保障するよう日本政府に求める勧告を採択した。今回の2次勧告は、日航が12年に客室乗務員940人を新たに採用していることに注目し、それを踏まえた協議を求めた。ILOに詳しい牛久保秀樹弁護士は

「整理解雇後に新たな採用をする場合は、解雇された者を優先して再雇用するのは世界の常識。ILO（->
<http://mainichi.jp/search/index.html?q=%EF%BC%A9%EF%BC%AC%EF%BC%AF&r=reflink>）は日航の整理解雇を重大な監視対象としている」と話している。

（毎日新聞）11/20

<http://mainichi.jp/select/news/20131121k0000m040039000c.html>（->
<http://mainichi.jp/select/news/20131121k0000m040039000c.html>）

広島空港、上半期利用者、前年同期比2.9%減

広島県が20日まとめた、広島空港の本年度上半期利用者（4～9月）は、国内、国際線合わせて131万3千人となり、前年同期比で3万9千人（2.9%）減少したことが分かった。

中国新聞によると、国内5路線は計116万2千人で2千人（0.2%）減。利用者の8割を占める東京線が、3.6%減の95万4千人に落ち込んだ。新幹線との競合激化に加え、岩国錦帯橋空港（岩国市）が開港した昨年12月に東京線が1往復減便されたのが響いた。

昨年12月に1日2往復から1往復に減便された沖縄線も23.7%減の6万3千人になった。一方、昨年12月に増便した札幌線は84.5%増の8万1千人、ことし3月に増便した仙台線は52.9%増の3万1千人。ともに1日1往復から2往復にした効果が出た。飛行機を大型化した成田線も18.3%増の3万1千人に増えた。

一方、チャーター便も含めた国際線利用者は15万人で3万7千人（19.8%）の大幅減となった

（中国新聞）11/21

<http://www.chugoku-np.co.jp/News/Tn201311210012.html>（-> <http://www.chugoku-np.co.jp/News/Tn201311210012.html>）

トルコ航空、機内で企業家のプレゼンテーションが見られる「インベスト・オン・ボード」

トルコ航空は12月より、投資家が搭乗中に座席で起業家のプレゼンテーションが見られる「インベスト・オン・ボード」を発表した。

インベスト・オン・ボードは、毎月更新され、起業家を市場へ紹介することを目的としたプログラムのeTohumとの提携により、トルコ航空を通じて11件の起業家のアイデアを搭乗客に公開。トルコ航空の機内エンターテインメントシステム「プラネット」により、ビデオプレゼンテーションを視聴することができる。

紹介動画：www.youtube.com/watch?v=7AhJLEKIN3w（-> <http://cts.businesswire.com/ct/CT?id=smartlink&url=http%3A%2F%2Fwww.youtube.com%2Fwatch%3Fv%3D7AhJLEKIN3w&esheet=50753064&newsitemid=20131119006931&lan=ja-JP&anchor=www.youtube.com%2Fwatch%3Fv%3D7AhJLEKIN3w&index=2&md5=aa57ce859d88f57d0e4b9900f21308fe>）

（トルコ航空プレスリリース）11/20

<http://www.zaikei.co.jp/releases/137284/>（-> <http://www.zaikei.co.jp/releases/137284/>）

エミレーツ航空、ボーイング社へ「777X型機」、米国内での製造を強く要求

エミレーツ航空はボーイングに対し、787型機「ドリームライナー」納入時に生じた混乱を繰り返さないためにも、「777X」型機の主要部品を欧州や日本で調達せずに米国で製造するよう強く要求している。

WSJによると、エミレーツのティム・クラーク社長は、ボーイングが予定通り2020年に777X型機を納入するには、自社工場で製造工程をしっかりと管理しながら組み立てるべきだと述べる。

クラーク社長はドバイ航空ショーの傍らで取材に応じ、「ボーイングには、777Xでは787の二の舞を演じてくれるな、とだけ伝えた」と答え、アジアや欧州の企業に製造・組み立て工程を外部委託すればボーイングは組み立て工程の品質や管理能力を失う恐れがある、と付け加えた。「われわれのためにそうした事態を回避して欲しい」。

また、カタール航空のアクバ・アル・アクバ最高経営責任者（CEO）も同様に、ボーイングには米国内の1つの工場で777Xを組み立ててもらいたい、と発言した。19日の会見で「正直に言うと、全ての工程を1カ所にまとめてもらいたい。ボーイングは787の立ち上げで教訓を得たはずだ」と発言した。

（WSJ）11/20

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702304152804579209150725733782.html> (->

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702304152804579209150725733782.html>)

全日空、10月、旅客利用実績、国際線、前年同月比15.9%増、L/F71.5%

全日空は20日、2013年10月のANAグループ旅客輸送実績（速報値）を明らかにした。これによると、国際線旅客数は53万6,958人で同15.9%増加した。搭乗率は前年並みの71.5%。

国際線全体の11月予想は提供2%増に対して、旅客数は7%増、搭乗率75%を見込む。

欧米線はビジネス需要を中心に好調で、特に欧州線の利用率は84%と高水準。また、中国線は座席供給が3%増に対し、旅客数は41%増加し回復方向。

一方、日本人のプレジャー需要は、対前年比8割減だった底からは回復しているものの、2011年10月と比べると64%減（前年同月比57%増）となっている。

路線別では、9月から増便した成田—シカゴ線の利用率は72%と堅調に推移。また、737型機による週3便から767型機での週7便運航に増便したミャンマー線は座席数が4倍になったが、旅客数は前年比8～9倍に増加、計画以上に利用が多いという。

（日刊航空）11/21

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1121-02.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1121-02.pdf>)

ANAHD伊東社長、JALとの業績差、自力で縮める努力

ANAホールディングスの伊東信一郎社長は20日の記者会見で、2014年3月期の連結業績予想を同社が下方修正する一方、日航が上方修正したことについて見解を語った。

日刊航空によると、伊東社長は、「我々が従前から指摘しているような構造の差は明らかに出ていていると思う」とした。その上で、「日本航空との差を自力で縮める努力をするのが我々の使命。格差是正等もそれがあって、支持されるのだと思う」と述べた。

また同会見の中で、篠部修AN（->）A社長は早ければ年内にも羽田空港増枠に伴う国際線就航地などを発表したいとの意向を示した。

（日刊航空）11/21

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1121-02.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1121-02.pdf>)

（時事ドットコム）11/20

http://www.jiji.com/jc/c?g=eco_30&k=2013112000848 (-> http://www.jiji.com/jc/c?g=eco_30&k=2013112000848)